

清須市人口ビジョン(素案) 概要

1 人口ビジョンの概要 (素案本編1ページ)

清須市の人口の現状を分析し、人口に関する市民の認識を共有し、今後の目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示すもの **【対象期間:2060年】**

2 人口の現状分析 (素案本編2ページ)

人口の動向分析

- 総人口は1970年から2010年の40年間で約6,000人増加し、おおむね増加基調で推移
- 年少人口(15歳未満)は近年はほぼ横ばいで推移、生産年齢人口(15~64歳)は1995年をピークに減少、老年人口(65歳以上)は一貫して増加し、2010年には20%超え
- 自然増が続く状況であるものの、増加幅(出生が死亡を上回る幅)は小さくなる傾向
- 合計特殊出生率(2008~2012年)は1.63と全国平均(1.38)や愛知県平均(1.51)と比較し高い水準
- 社会増減は年によって変動があるものの、この10年間は社会増の年が多い
- 県内市町村別の転入・転出の状況(2012・2013年)については、名古屋市からは転入超過である一方、近隣の稲沢市、あま市等に対しては転出超過
- 20歳代前半の男性は流出超過傾向(国勢調査間)
- 市内の居住年数(2010年時点)については、男女とも25~34歳では5年未満が5割超

観光・交流人口の状況

- 市内観光資源の利用者数は、尾張北部地域の主な施設・資源と比較すると低調
- 滞在人口率の順位(2014年)は、平日・休日とも県内では20位台(69市区町村中)にとどまっており、特に休日の順位が低い状況
- 時間帯別の滞在人口については、平日は終日流入超過である一方、休日は日中流出超過

産業・就労の動向分析

- 市の産業特性としては、製造業、建設業、運輸・郵便業等で特化係数が高く、市民が就業する産業としても、製造業、建設業の就業者数が多い
- 就業や通学をする場を市外に持つ市民が多い(30~34歳は特に多い)

3 住まい・子育て・結婚に関するアンケート調査結果 (素案本編28ページ)

定住に関する意向

- 87.5%の市民が住みよいと評価し、76.7%の市民が今後も清須市に住み続けたいと評価

理想の子どもの人数

- 「2人」が64.6%と最も高く、平均すると「2.1人」

結婚に関する意識

- 92.5%の人が結婚を望んでいる。結婚していない理由としては、「適当な相手にめぐりあわない」(36.6%)、「異性とうまく付き合えない」(29.2%)等

市への期待

- 若い世代にとって暮らしやすい清須市をつくるために市が更に充実させる必要があることについては、「子育て支援」が53.1%と最も高く、次いで「商業・娯楽施設の充実」(35.4%)、「仕事と家庭の両立の支援」(23.3%)等

4 リニア中央新幹線の影響 (素案本編33ページ)

- リニア開業による所要時間短縮率が47.8%と、県内では名古屋市に次ぐ高い短縮率
- 愛知県の報告書では、リニアインパクトを生かした地域づくりの方向性(西尾張地域)として、戦国武将ゆかりの地や水辺空間などの磨けば光る魅力的な観光資源があることを生かし、ショートトリップ観光を促進していくことなどが示されている

5 人口動向に関する課題の整理 (素案本編35ページ)

低調な観光・交流人口

- 豊富に有する歴史的資源を生かして更なる観光の振興、とりわけ、ショートトリップ観光の促進により、交流人口の拡大を図り、地域の活力を醸成することが必要

若年層の人口流出・定住化

- 将来的な自然増・社会増の鍵を握る若年層の人口流出防止や定住化に向けて、若い世代が求める子育て支援施策等の充実に努めることが必要

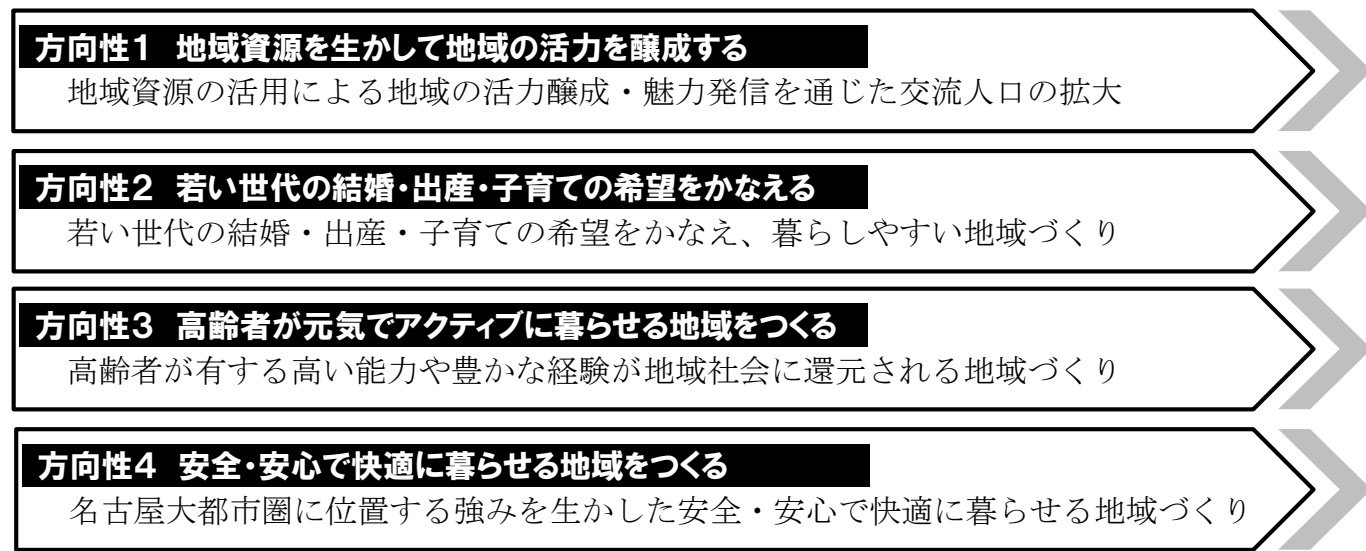
高齢化の進展

- 高齢者が有する高い能力や豊かな経験を生かしながら、高齢者も社会の支え手として活躍できる社会を実現することが必要

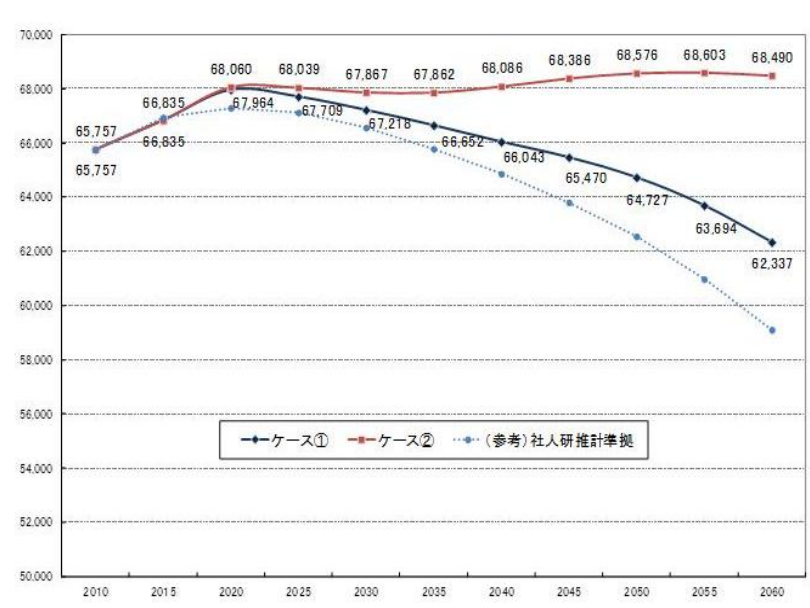
将来的な人口減少

- 現在の人口増加のトレンドを少しでも長く維持していくためには、名古屋大都市圏に位置する本市の強みを生かしたまちづくりの取組を、継続的かつ発展的に進めていくことが必要

6 目指すべき将来の方向 (素案本編37ページ)



7 人口の将来展望 (素案本編38ページ)



【ケース①】出生率が現状程度で推移
 [出生率] 2020年: 1.63 2040年~: 1.61
 [純移動率] 過去10年間の平均移動率で推移

【ケース②】出生率が上昇
 [出生率] 2020年: 1.68 2040年~: 2.07 (※)
 ※愛知県の人口ビジョンと同値
 [純移動率] 過去10年間の平均移動率で推移

- ケース②によった場合、2020年以降も大きな減少局面を迎えることなく、緩やかに増加
- あらゆる施策を相乗的に講じてケース②に近づけていくことが必要